

じゃばらは花粉症の症状を緩和し抗酸化力を高める

○渡辺一志、横山久代、荻田亮、岡崎和伸（大阪市立大学 都市健康・スポーツ研究センター）

山口貴大（大阪市立大学 大学院医学研究科）

松浦義昌（大阪府立大学 高等教育推進機構）

坂本正博（株式会社ファイブワン）

【背景】

現在、日本人のアレルギー性疾患は増加の一途を辿っている。特に、スギ花粉症の有病率は4人に1人が発症していることが報告されている。

近年、和歌山県北山村とその周辺で生産されている「じゃばら」の脱顆粒抑制効果や花粉症に対する軽減効果について果汁や発酵・醸成したペースト蜂蜜摂取などの検討が散見されている。

【目的】

本研究では、じゃばらの果皮粉末の摂取が、スギ花粉症の症状と酸化ストレスおよび抗酸化力に及ぼす影響について検討することを目的とした。

【方法】

対象：毎年花粉アレルギー症状を自覚している成人および学生19名。

測定項目：①アレルギー検査；IgE（スギ）、②アンケート調査（くしゃみ・鼻かみ、鼻づまり、目のかゆみ、涙目、日常生活の支障度）、③酸化ストレス（d-ROMs）および抗酸化力（BAP）の検査。

摂取の量と期間：1日約300mgのじゃばら（3カプセル）を9週間（プレ・3週・6週・ポスト）とした（3月～5月上旬）。

【結果】

① アレルギー検査（IgE：スギ）は、 18.3 ± 24.3 U/ml、 23.5 ± 32.4 、 27.9 ± 32.0 、 29.2 ± 33.0 と漸増し、摂取期間中にアレルギー反応が継続して生じていた。

② 花粉症に対する5項目のアンケート調査（1～5段階）は、全ての項目に症状の緩和傾向が認められ、くしゃみ・鼻かみ、涙目、日常生活の支障度について、プレとポストで有意な緩和が認められた。（図1・2・3）

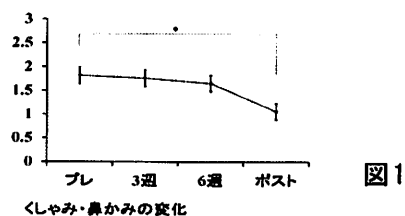


図1

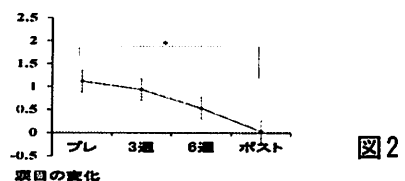


図2

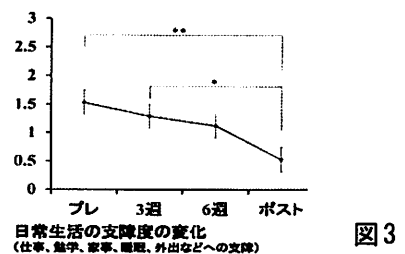


図3

③ 酸化ストレスに有意な変化は認められなかったが、抗酸化力は摂取6週目以降に有意な向上が認められた。（図4）

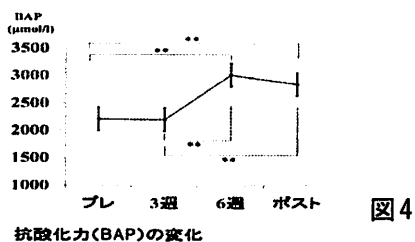


図4

【結論】

じゃばらの摂取により、花粉症の症状の緩和と抗酸化力の向上が認められた。